

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 43 号

平成 14 年 3 月 5 日発行

編集者 川 添 一 郎

発行 三水会（北里大学
水産学部同窓会）

事務局 〒246-0031 神奈川県横浜
市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL・FAX045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行
大手町支店
008-1182388

アラスカ紀行 朝日田卓講師

P 2 ~ 3

朝日田先生を囲む会

P 6

三陸キャンパス 校舎の現況

P 4

漁火祭報告

P 7

九州地区親睦会

P 5

「見たい・知りたい・話したい」アンケート

P 8



町並み散策

P 8 編集後記参照



自然、人、アラスカ

9 回生 (1984 年卒)

朝 日 卓



Auke Bay (オーク湾) から見たメンデンホール氷河 (ジュノー市)

「西からのぼったお日様がひがしへしずむ」ご存知、天才バカボンの主題歌の一節である。地球上では西から太陽が昇ることは無いが、太陽が北に沈んだり、昇ったり沈まないなんてことはアラスカなど高緯度地方では当たり前のことである。そんな日本の常識

とは異なる事柄を、一年間家族共々アラスカで暮らした経験をもとに紹介したい。

■沈まぬ太陽、昇らぬ太陽

私達が住んだ場所は、米国アラスカ州ジュノー市。パンハンドル (フライパンの柄) と呼ばれるアラスカ南東部、カナダと国境を接した所にあるアラスカの州都である。北緯58度、日本最北端の宗谷岬より12度以上も北である。夏は白夜の季節で、朝3時頃に昇った太陽が夜11時頃沈む。もっと北に行けば一日中太陽が沈まない、ミッドナイトサンを見ることが出来る。極地方の夏は明るい時間が非常に長いので、人々は仕事が終わった後もスポーツや釣りなどアウトドアライフを楽しむ。夜? は寝室にカーテンが無いと明るくて眠れない。逆に冬には朝9時過ぎに昇った太陽が午後3時頃沈む。子供達が朝のスクールバスを待つ時間はまだ暗く、授業が終わって帰ってくる頃はすでに真っ暗である。しかし、晴れた夜には素晴らしいオーロラが楽しめる。暗く長い冬と明るく短い夏、それがアラスカである。

■熊

アラスカと聞いて大多数の人が思い浮かべる動物は熊であろう。州都であるジュノーにも沢山の熊が生息しているが、ほとんどがブラックベアである。ブラックベアはグリズリーベア (ヒグマ) ほど大きくはないが、日本のツキノワグマの倍もあり、襲われたら命にかかわる。アラスカでは人的被害を聞かなかったが、ガーベージベア (ゴミ箱あさり熊) が問題となっており、2001年夏には観光客で賑わうジュノーのダウンタウンを熊の親子が駆け抜けるという騒ぎがあった。我が家の近くにも時々熊が出没し、家の窓や車から熊を眺めた。ガーベージベアが出ると、住民は警察にベアコール (熊110番) をする。間もなく警察官が銃を持ってやってくるが、すぐには撃たない。撃つのは人間に危険が迫った時のみであり、日本のようにやたらに熊を駆除したりはしない。熊が人間に危害を加えるのは、人間がその原因を作るからであるとの考えがその根底にある。人間の食べ物の味を覚えた熊は、ゴミ箱をあさったり人から食べ物奪ったりするようになる。だから、

アラスカではゴミの管理が特に厳しく、家庭ゴミもゴムバンドで蓋が開かないようにしたゴミ箱に入られて収集日の朝に出さなければならぬ。公園などの屋外に設置されたゴミ箱は鉄製または頑丈な木製で、人間でなければ蓋が開けられないような構造になっているし、キャンプの際は特に厳密な食料とゴミの管理が求められる。議会では、家庭用のゴミ箱をもっと頑丈なものにする法律を作るか否かでいつももめている。2001年にジュノーで射殺された熊はわずかに二頭だけであった。

■アメリカの国鳥、ボールドイーグル

ボールドイーグル (白頭ワシ) は、翼の端から端までが2・5mにもなる大型のワシである。私達が住んでいた家の庭にある大きなスプリュースの木にはハクトウワシの巣があり、2001年にも一羽のヒナがかえった。ヒナは、親鳥が運んでくるサケやカレイなどの魚を食べてどんどん大きくなっていった。親鳥は家のベランダの屋根にとまって海を見つめ、魚が水面近くに現れるのをじっと待つ。獲物を見つけるとすばやく飛び立ち、一直

線に海に向かって突進する。こんな狩りの様子を毎日のようにリビングから眺めていたが、その成功率は10%ほどであった。しかし時々、飛び立てないほど大きな魚を捕らえて苦労する姿も目撃した。親鳥が居るのに気づかずにはベランダに出てしまい、ワシと目が合ったこともしばしばであった。ヒナの巣立ちを心待ちにしていたが、巣立ちより早く私達の帰国の日が来てしまった。

■クジラ

北の海は豊饒の海である。氷河から溶け出した清冽な水が大地を潤し、豊かな森を育み、海にそそぎこんで海藻や貝類、魚、クジラなどを育む。ジュノー周辺はアラスカ随一のホエールウォッチングポイントで、世界中から観光客やプロカメラマン、テレビ局などが押し寄せる。野生生物写真家の岩合光昭氏や内藤洋氏（水産学部4年生）も取材で訪れている。このクジラはザトウクジラで、はるばるハワイ沖やメキシコ沖からニシンやアミ類などの餌を求めてやってくる。私達が住んでいた家は小さな入り江に面していたが、そんな浅い場所にもクジラはやって



ザトウクジラのブリーチング

きた。船で少し沖に出ると必ずと言っていいほどクジラに出会えたり、運がよければ水面にジャンプするブリーチングを見ることが出来た。クジラがなぜブリーチングをするのかわかっていないが、クジラはとても楽しそうであった。ひよつとすると我々と遊びたかったのかも知れない。

■モスキート

デカイ。それがモスキート（蚊）

の第一印象である。ジュノーでは蚊に悩まされることはほとんど無かったが、6月にヘインズから内陸部へ向かった際には、巨大な蚊の軍団の攻撃に閉口した。極地方では、虫達の活動が短い夏に集中する。蚊も例外ではなく、懸命に動物の血を吸い子孫を残す。井田先生はアムール川での調査の際、蚊の猛攻を受けて野外での用便に苦労したそうであるが、北米の蚊も極東ロシアの蚊に負けず劣らずであった。日本の防虫スプレーはほとんど効かず、現地で購入したものを使用した。また小さなラケットのような形をした、高電圧が流れる仕組みの「蚊たたき」も売っている。うまく蚊にヒットすると、ジジッとって蚊が黒コゲになった。

■人

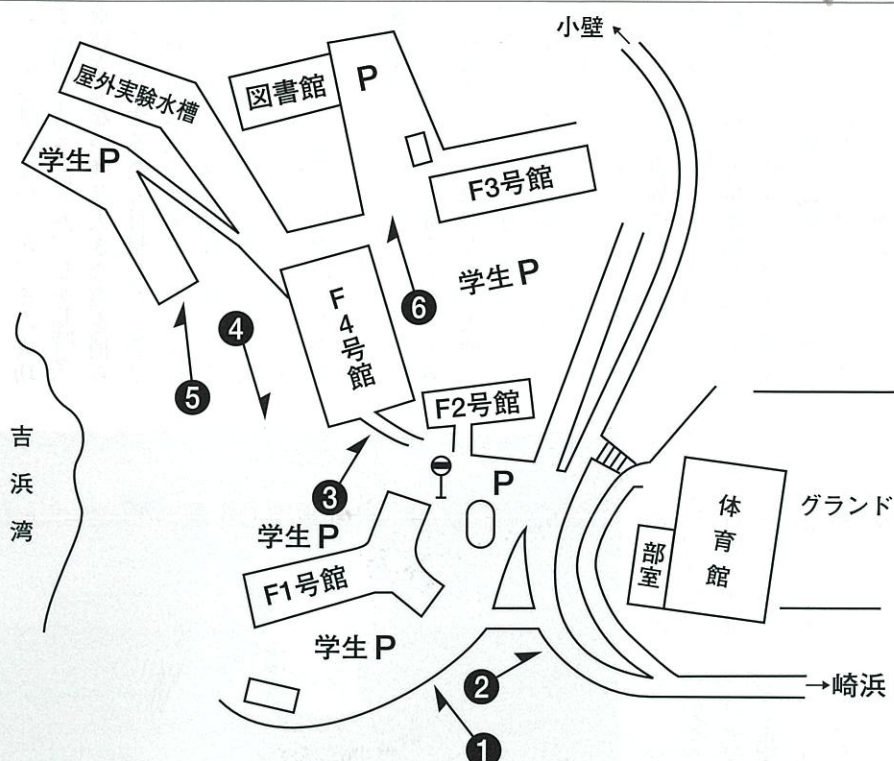
子供達は現地の普通の小学校に通った。印象深かった日本の学校との違いは、学校が親をヘルパーとして受け入れていることである。私も時々小学校に行き、子供達と一緒に勉強した。教育プログラムも充実しており、ネイチャースタディやフィールドトリップと呼ばれる野外学習は、アラスカの自然を最大限に利用したものであった。

森林局の職員と親がボランティアで引率役を務める。学校の裏山に分け入り、草や木を観察し、熊の糞をかき回して何を食べているかを調べ、においまで嗅いでみる。木の年輪を見て方角を知る方法や、耳をすませて音を聞き沢の場所や道を見つける方法などを学ぶ。先生や親達は知識だけを与えることをせず、必ず子供達に考えさせ判断させる。また、五感を使うことを重要視する。学校では親と先生、親同士、子供と大人、それぞれの間で信頼関係が見事に成り立っており、それが豊かな教育を支えていた。

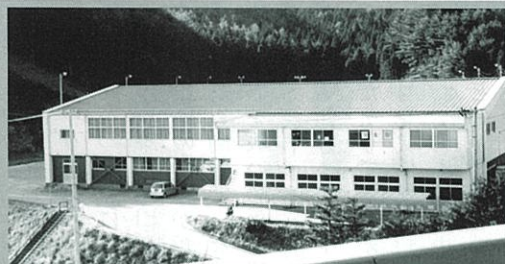
■やさしさ

アラスカで暮らした一年は夢のように過ぎ去った。私達は様々なものを学んだが、特に人のやさしさを学んだように思う。人のやさしさを感じ、人にやさしくすることを教えられた。自然は時に厳しかったが、人間も一つの生物であることを教えてくれた。全てのものに感謝し、人と自然にやさしく生きることが本当の意味での豊かさに通じることを実感した。人の原点を垣間見たように思う。

■三陸キャンパス校舎の現況■



水産学部インターネットホームページ <http://www.kitasato-u.ac.jp/>



1



2



3



4



5



6

九州地区三水会に参加して

7FA 有吉 玲一

去る平成十三年十月二十七日博多におきまして、九州地区の三水会が開催されました。稲沢様、岡田様（5期卒業）の音頭取りにより、九州各地より各会員が参加されました。福岡での三水会も今回が初めてのことも有り、参加人数も十七名と少なかつたのですが、小林先生が講演で参加されるということで、水族病理OBの方が中心になり九州各地より集い会を盛り上げて頂きました。

まず稲沢様からの挨拶のあと小林先生にご講演をいただきました。スライドを見ながらの講演で、先生の退官後のライフワークの一部を講演して頂きました。各地の美味しいお酒を楽しみながら、道祖神とお城の行脚をされるとのこと。普段気にもならなかった道祖神をスライドで見せていただき、まだまだ勉強しなければならぬ事が沢山あることを思い知らされました。講演後・懇親会となり、皆さん

久しぶり再会されたせいとか三陸時代の話で会は盛り上がりしました。

本部より長谷川会長もお見えになり、三陸の近況をスライドを見ながら、説明して頂きました。

三陸の生活事情も随分と変わり驚きましたが、自然環境は以前と変わりなく安心致しました。

その後、自己紹介を兼ねて各会員の近況報告となり各々のご活躍ぶりを聞かせて頂きました。私自身も水産会社に入社しまして約二十年、三水会の方々との取引が少しずつですが有りますし、皆さん親身になってご協力していただく事が多々有ります。今後も九州地区の会員様とのお付き合いも今まで以上に図っていきたいと考えております。

三水会には初めての参加ですが、今後も定期的に開催して頂き、次回開催時には、多数の参加を希望致します。私自身も九州地区の三水会を盛り上げて行ければなと思っております。

最後になりますが、今回の三水会開催にあたりご尽力いただきました稲沢様、岡田様、さらに本部よりお見え頂いた長谷川会長、心

よりお礼申し上げます。小林先生におかれましては、ご健康に留意されて美味しいお酒をいつまでも楽しんで頂きたいと思えます。またの再会できることを楽しみにしております。

今回、三水会に参加させて頂いた事、また原稿のご依頼頂きまして衷心より感謝致しております。

三水会会員の益々ご健勝とご発展を心よりお祈りし甚だ簡単ですが報告を終わらせて頂きます。本当に楽しい三水会に参加させて頂いた下さりありがとうございます。



小林節健在



なつかしい顔が集まった
九州地区親睦会
(上右側・筆者:有吉氏)

屋台での二次会



2期中川氏の熱弁

「朝日田先生を囲む会」

が開催されて

9期生 山尾 修司

「朝日田先生」、こう呼ぶことに對して、環境生態研究室講師であるところの朝日田君と同期の我々にとってはなんだか違和感を覚えるところですが、去る九月二十九日の土曜日に、東京は湯島の某お寿司屋さんにて「朝日田先生を囲む会」が催されました。

「囲む会」は、遠方より井田斉先生をお招きし、朝日田君の同期生を中心に後輩（特に朝日田先生が指導を努めたかわいらしい生徒たち）を含め、総勢二十四名という大人数が集まり、賑々しく行われました。これはひとえに朝日田君の人望によるものと思われませんが、その裏側で幹事役を務めた人たちの功績も大きかったことでしょう。

そもそも、何故「朝日田先生を囲む会」が開催されたのかと申しますと、朝日田君は、DNA分析の研究のため約1年間アラスカ大学へ留学され、この程無事に帰国したことから、その安着祝い及び帰朝報告会を兼ねて皆で集まりましょうというのがその趣旨でした。中にはそんな趣旨はともあれ、朝日田君をダシにして飲んで騒ごうという人たちもいたかもしれません。なぜ

ならば、会が始まり、いよいよ朝日田君の帰朝報告が始まったのはいいのですが、既にアルコールの影響は静かに話を聞こうとする能力を奪いつつあり、いつの間にか挨拶だったのか雑談だったのか騒然とよくわからない状況になってしまったからです。

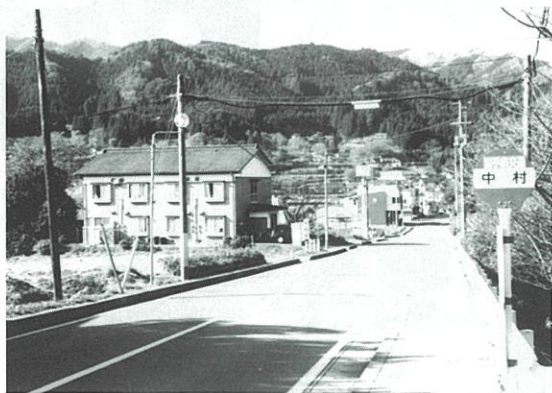
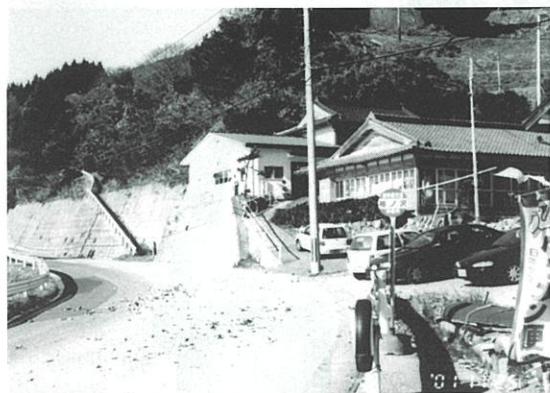
ダシとなつてしまった朝日田君には申し訳ないのですが、井田先生にもお会いでき、また集まった中にはお互い卒業して以来の再会となつた人たちも多く、全く変わらない人、変身してしまった人、光り始めた人等々の話題の尽きぬ「宴会」となり、「囲む会」となり、楽しいひとときとなりました。

いずれにしましても、朝日田先生は、母校の将来を担う教員として、同期の我々にとっての誇りです。我が国水産業の発展のため、後輩の指導等、今後と

もご活躍されることをお祈りしております。

ところで浅田先生！今度はいつ上京されますか？

前列中央・朝日田先生



今世紀最初の漁火祭を

無事におえて：

F990191 鈴村 武仁

今年の漁火祭は、前夜祭も含め十月十九日（金）～十月二十一日（日）に行われました。心配していた台風の接近もなく、三日間とも快晴に恵まれました。

今年は、二十一世紀最初の年であるということで、よりいっそう盛り上げるべく関係者一同一丸となって頑張ってきました。また、去年まで十六年間漁火祭を大いに盛り上げてくれていた水産学部伝統の「大漁踊り」がなくなつて最初の年でもありました。しかし体育会により結成された「気嵐志」にその意志は継がれ、十月二十日に行われた「秋の陣」により、新たなスタートをみごとに飾り、大いに盛り上げてくれました。そのおかげもあつてか、当日の企画は大盛況でした。

このように今年の漁火祭は大成功を収めたと思っております。しかしこれだけの大成功を収めたのは、陰に漁火祭に携わって下さった全ての方々の御協力があつてこそと痛感しております。

当日の企画としては、一般の方から学生まで、幅広い方々に楽しんで頂けるよう考慮しました。「もちつき」や

「巨大海苔巻」などには多くの方が参加し、みんなで作ったもちや海苔巻を来場者の方もおいしそうに食べ、大いに賑わいました。小学生などを対象とした「作ろう！遊ぼう！割り箸鉄砲」や「キーホルダー作り」では、用意していた材料がすぐになくなってしまふほど大盛況でした。

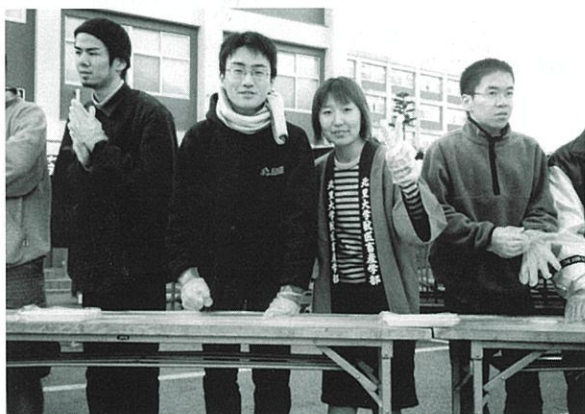
また、地元の学校や美術会からお借りした絵画などを展示する「サンリク秋の美術展」や大船渡市で活躍しているYOSAKOI踊りグループ「破天荒」の方々による踊りの披露、地元三陸町の方々から寄付して頂いた物を売りその売上金を三陸町へ寄付する「チャリテ

ィバザー」といった、地域の方と学生との交流を深めることを目的とした企画も作りました。特に「YOSAKOI踊り」では、『破天荒』のグループに混じつて、

多くの学生が飛び入り参加して躍り、とても盛り上がりました。

このように今年の漁火祭は大成功を収めたと思っております。しかし、これだけの大成功を収めたのは、陰に

実行委員のみんな、諸先生方、学生課、教務課、総務課の皆様、地元の方々、そして来場して下さった全ての方々のご協力あつてこそと痛感しております。この紙面を借り、漁火祭実行委員会代表として心より厚く御礼申し上げます。本当にご協力ありがとうございました。



いろんな企画に参加し、みんなで盛り上げた「漁火祭」



体育会気嵐志（けあらし）による「秋の陣」の披露

見たい・知りたい・話したい

◆ 事務局からのお知らせ ◆

■平成14年度三水会定期総会

下記により平成14年度定期総会を開催いたします。役員、代議員はもとより一般会員の方も傍聴できます。

開催日時：平成14年5月19日（日）午前11時～12時

（受付開始10時30分より）

開催場所：北里大学薬学部E号館802会議室〔白金校舎内〕

協議事項：平成13年度事業報告・収支決算、平成14年度事業計画案・収支予算案、その他

*午後3時より懇親会を予定しています

★お知らせ

三水会では、研究室OB会、クラブOB、同期会、地区親睦会等、10名以上の集合に助成金を出しています。是非ご利用下さい。詳しくは、事務局までお問い合わせ下さい。

□計報のお知らせ

増田憲浩さん（15期生）が平成12年6月に、阿部喜一さん（6期生）が平成14年2月に逝去されました。慎んでご冥福を、お祈り申し上げます。

■水産微生物研究室OB会よりアンケートのお願い

野村先生よりの御希望で、今回のOB会を三陸で開催したく計画を進めております。お忙しいとは存じますが、下記の件のアンケートをお願いいたします。

I：開催日はいつがよいか？

ゴールデンウィーク・夏休み・土日の連休・etc.

II：宿泊先は自分で準備できるか？

会では管理棟の利用を考えています。

III：現地集合、現地解散でよいか？

IV：その他ご意見がありましたら、お書きください。

アンケート送付先

・E-mail： kuroaki@livedoor.com

・はがきの方：〒169-0073

東京都新宿区百人町1-15-19

黒澤 明

たくさんのお返事お待ちしております。三陸OB会実行委員会

■柔道部OB会開催のお知らせ

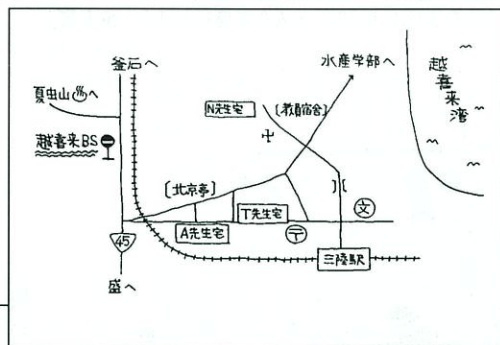
柔道部OB会を今年秋に開催を予定しています。参加希望の方は下記の連絡先にご連絡ください。詳細を送付いたします。たくさん参加をお待ちしています。

・E-mail： kuroaki@livedoor.com

・はがきの方：〒169-0073

東京都新宿区百人町1-15-19

黒澤 明



編集後記

岩手県気仙郡三陸町越喜来。と三陸町民時代幾度この住所を書いたことだろう。昨年11月15日大船渡市との合併により私の旧住所も大船渡市三陸町越喜来字肥の田と変わりました。

上野駅より夜行列車を乗り継ぎ三陸に行く世代の私などには、今だに新幹線は物足りない思いがある。ある時学生より池袋～越喜来8,700円也の夜行バス「けせんライナー」の話聞いたことがあった。しかしながら学生を含み利用頻度が高く予約を取るのが大変との事だ。「焼マツモ・ホヤ薫製」「ひぞっ子」を片手にいつか乗ってみたいものだ。KH